

白樹会の皆様、日頃から看護学部の多大なご支援を賜り心より感謝申し上げます。さて、本学は、平成27年度に開学10周年を迎え、4月には清水新学長のもと、新体制でスタートいたしました。平成22年4月の法人化後6年が経過し、平成28年度には「第2期中期計画期間（6年間）」に入ります。したがって、これまで以上に大学としての自立やオリジナリティが求められるようになります。同窓会の皆様方のさらなるお力添えをお願い申し上げます。

本学部の前身校梨立高等看護学院は、昭和28年に開学いたしましたので、60年以上も及ぶ長い看護教育の歴史があります。平成7年度に歴史的看護短期大学を開校。そして3年後には4年制看護大学、完成年度には大学院開設を実現しております。看護教育が大学教育化します。看護教育が大学教育化し、21年目を迎えました。この間、先達の看護の熱い思いは、時と時代を超えて受け継がれ現在



公立大学法人 山梨県立大学 看護学部 学部長 流石 ゆり子

時と時代を超えてつながる看護

に至っております。気が付いてみれば自分も、その当時ご教授いただいた恩師や本県の看護の礎を築かれた先輩諸氏の年齢以上の歳になろうとしていることに驚かざるをえません。看護の歴史は、その時代、時代を生きた人々の熱い思いにより創られていられることをあらためて実感させられる頃です。

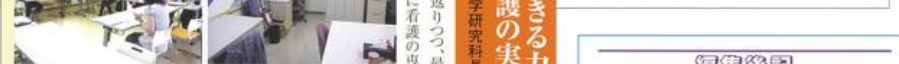
看護実践開発研究センターでは、今年度も「認定看護師教育課程（緩和ケア5期生17名）、課程（認知症看護2期生28名）」の修了生45名を送り出すことができた。超高齢社会を背景に、「多死社会」に突入しようとしているのが国においては、今、緩和ケアと高齢者医療を統合する「エンドオブライフケア」の概念が注目されています。社会のニーズに合致した「緩和ケア」と「認知症看護」両課程を同時開講できることは嬉しい限りですが、県内施設を拠点とした修了生が、異日修習を兼ねた全国ネットワークで活動を展開できることは



公立大学法人 山梨県立大学 看護学部同窓会「白樹会」会長 山本 美代子

人々のいのち、希望、生きる力を支え、寄り添う看護の実現を目指して遠藤みどり

昨日、未曾有の返りつつ、最新の知見や理論をもとに自然災害、事故や看護の専門性を学問的に追求する犯罪などにより命を失う人々が多いことに心を痛めやみません。しかし、どの様な状況にあっても看護者は、人々の命、希望、生きる力を支え、寄り添うことが使命と考えられています。看護を必要とする人々が真に癒され、看護を必要とする人々の心、心を癒すことができる看護は、看護者にとっても同窓会の皆様を支援し、看護実践経験を振り返り、



大学院での学修風景
大学院生専用の研究室

今年度のテーマは「つなぐ」です。今、世界は、戦争と平和、人権について考えさせられる出来事が多くあり、日本においては、少子高齢化が加速し、医療へのニーズが高まり、より個性化複雑化したニーズへの対応が求められています。また、2020年に開催予定の東京オリンピックに向けて、経済も大きく進化しています。それらから、私たちは、看護職の同窓会人として、若い世代に生きる力、看護の誇りをつなげていきたいと考え、今年度のテーマを「つなぐ」としました。また「同窓会活動の可視化計画」の一環として、私たち事務局自ら、現場での情熱を原動力にしていくことにしました。事務局員一同、これからも同窓会活動を前向きにしたいと思っております。最後に、会誌第20号「白樹」の発行に際しまして、多忙な中、寄稿してくださりました方々に感謝申し上げます。(前澤)

山梨県立大学看護実践開発研究センター
母校で認定看護師をめざそう!
(緩和ケア・認知症看護)
詳しくは：<http://rcdn.p.yamanashi-ken.ac.jp/>

平成28年度 通常総会
神様のカルテ著者 夏川草介氏 講演会
日時 **平成28年5月28日(土)**
12:00~受付 12:30~通常総会
13:30~講演会
場所 **山梨県立大学 池田キャンパス講堂**

事務局
事務局長 岡本知子
書記 前澤美代子、狩野英美
会計 小尾栄子、井川由典
事務局員 森田祐代、渡田奈央、大船朋美、赤坂みえ子、中嶋君枝、小津めぐみ、星野麻子

連絡先
〒400-0062 山梨県甲府市池田一丁目6番1号
Tel.055-253-7780 Fax.055-253-7781
発行所・山梨県立大学看護学部同窓会事務局



公立大学法人 山梨県立大学 看護学部同窓会「白樹会」会長 山本 美代子

歴史を繋ぐ・そして未来に

平成28年を迎え白樹会の皆様には、お健やかに過ごされることを願います。日ごころ、白樹会の活動に多大なご理解とご支援をいただきありがとうございます。感謝申し上げます。

本大学の「看護実践開発研究センター」が平成23年度から開校され、緩和ケア認定看護師92名、認知症認定看護師が24名、開設から14年経過の「看護学研究科修士課程」専任看護師19名と誕生してまいりました。歴史を追ってみると、昭和28年県立高等看護学院が設立されたこと、「白樹会」と命名された今日も引き継がれて

おられます。今日の専門看護師、認定看護師が輩出され高い看護教育も、歴史ある時代として、基礎を置き諸先輩の大きな活動と未来を在校生との活動が「つなぐ」を柱に発展してきたと痛感しております。

例年の総会は皆様のご理解を得て各審議が承認され、記念講演は上智大学名誉教授アルフオンスター先生「よく笑え、よく死ね」と題して300名以上の参加者があり、死生観の確認ができた、ユモアの力を再認識した等多くの感動の声が聞かれ、先生との握手会も写真を撮ったり心豊かになる時間を持つことが出来ました。茶話会、アロマハンドマッサージも好評で盛況に終了しました。聖灯祭では、同窓会役員と懇談会、アロマハンドマッサージ、健康茶の試食等工夫を凝らしました。さらに、今年度から学生のチューター制度に支援金を贈呈することとし、オープニングで披露した、又例年行事となつた国家試験への激励は、試験で使用する鉛筆を合格祈念の文字を書いた封筒で卒業生に贈呈し「勇気が出る」と喜ばれております。予ねてより懸案であった在校生の入会が減少することに、今年度から、新入生に「理解を得よう」にしろ入会を勧め、今後はこの取り組みが充実していく事と期待しております。

毎年、役員一同は安定した活動が出来るよう、そして、将来の展望が描けるよう、一層の努力を重ね、母校の発展に寄与できることを信じて活動しております。今後皆様活動の更なるご支援をお願いいたします。



山梨県立中央病院 助産師

誇り高い助産師という
仕事に携わって

濱田 奈央

私 は現在山梨県立中央病院総合周産期母子医療センター産科病棟で助産師として働いており、5年目を迎えます。当院は総合周産期母子医療センターとしてハイリスクやローリスク妊産婦さんの妊娠・出産・育児を支援しています。最近では山梨県出身の鈴木ユウさん著「コウノドリ」がドラマでも話題となり、周産期医療の現場を多くの方に知ってもらえるきっかけとなり大変嬉しく思っています。

ハイリスク妊産婦の紹介や母体搬送の受け入れ、出産など日々緊迫した現場ではあります。妊産婦さんとその御家族やスタッフをはじめ多くの方に支えて頂きながら、助産師として自分らしく仕事を続けられています。辛いことや悲しいこともあ



つながぐ

看



私 が県の保健師として働くようになり、早いもので20年が経ちました。

看護師になって30年。この10年は診療所に勤めながら、在宅診療にも携わっている。最近病院死が当たり前になってきているが、近年病院死よりも穏やかな在宅看取りへと希望される方も増えてきている。

ある時、80歳の女性が肝臓癌終末期で在宅看取りを希望され在宅診療が始まりました。長男家族と同居しており、近隣に娘家族も住んでおり、孫たちは放課後になると祖母宅に集まってきた。祖母は、亡くなる時間をもつて、「いのちの大切さをつくり、周りで賑やかにひと時を過ごしていた。祖母も孫たちの賑やかな声に、腹水が貯まり、あり苦しさがあるに携わっていきたい。

井出 和子

のた内科クリニック 緩和ケア認定看護師



山梨大学医学部付属病院 緩和ケア認定看護師

歩み
「出会いに心をつないで」

中嶋 君枝

一 昨年、私は看護学校の懐かしさ。30代、とにかく仕事に明け暮れ、い学び舎で再度学ぶ機会を得た。命ぜられるまま色々な科を経験した。真面目ではあったが、看護観なしそれが今の私の財産になった。40代、再度学びの機会を得た。緩和ケア中心に世界が回っていると思っていた。ア、看護について、それから少しばかり10代のあの頃、果たして今の私を想い看護研究についても。そして50代、今私の学びは続いてきたらどうか...

20代、私が大切にしたいのは「人」に優しく自分に厳しく「人」はどうか。下さる沢山の方々の支えがある。果たして今自分に厳しく「人」はどうか。たして今の私はその沢山の恩に報いなければ、そんなことを日々考え仕事を受けているのだろうか。

辛い自分嫌になり、看護する事がない経験や学びを少しでも誰かの役にしよう。そんな時出会った恩師にたつことが出来るようつなぐ。いから「人は誰かと支え合って生きていくこと」が私に課せられた役割なの。人との出会いを大切にしたい。ではないかと思う。驕ることなく人と教えられた。そして、ありのままのとの出会いに心をなげ感謝しながら、日々を積み重ねていければと思う。今日この頃である。

今まで、峡南、峡東、中北管内の保健所で働き、管轄の市町を担当してきました。保健所で関わりのある難病や結核の患者、療養を要する見のことで市町の保健師の方と話をすると、家族や近隣者、地域の組織団体、学校、施設、病院など地域にある社会資源についてよく把握されています。

現在中北保健所で在宅療養者支援の推進にかかわる仕事をしています。在宅療養者の中には介護保険を利用しながら訪問看護等の医療資源を利用している方も多く、医療と介護の連携の重要性を感じています。

養 護教諭として働き始めて、25年目になった。そのうち16年は生徒数700人前後の大規模中学校に勤務している。なに、養護教諭の役割は、特に関心している先生たちとは、一度もなく、同じ職場で同じ職種の人とともに働いた経験がない。

山梨県では、ほとんどの養護教諭が、一人という現状で、新採用者であれば、一人だけ保健室を任される。その責任を背負っている。本来なら先輩の背中を見て学び、教えてもらいながら一緒に仕事を覚え、経験を積んで行けるとよいのだが、実際に私も、前任者に教えていただいたり、近くの学校に勤務している方に相談したりと、大勢の養護教諭の先生方になにかと助けていた。



山梨県中北保健福祉事務所中北保健所 健康支援課 保健師

想いをつなぐ

大船 朋美



城南中学校 養護教諭

あたたかいつながり

平賀 恵美

事務局からの連絡

氏名・住所変更等の連絡は、白樹会ホームページ (http://www.hakujukai.net/) から行うことができます。●この通知がご実家に届いた場合は、ご本人にお渡しくださいますようお願い致します。



山梨県立大学 看護学部 看護関連領域教授
退任記念最終講義 文珠紀久野先生
『共にある』関係を目指して
一きっかけは「今ここ」の出会い—
日時:2016年3月1日(火) 13時~14時30分
場所:山梨県立大学池田キャンパス 講堂
お問い合わせ:文珠紀久野教授 最終講義準備委員会
LastLecDr.monjyu@yamanashi-ken.ac.jp

- 3月1日、5月28日の両日は駐車場が限られておりますので、公共交通機関をご利用になるか、お車に乗り合わせてご来場ください。
- 通常総会等の運営には、卒後3年目の同窓生が関わります。
- その他お問い合わせは、055-253-7780(白樹会事務局)までお願いします。